

「県立図書館に関するアンケート」単純集計結果 分析

【分析の視点】

神奈川県立図書館にはどのような利用者がいるのか？

【分析の概要】

- 利用頻度では、「今日初めて」は26.3%で、新しい本館開館前の2021年度調査の16.5%より9.8ポイント増加しており、新しい本館への関心が初めての来館者増につながっていると考えられる。(第1表・第1図)(2021年度 第1表・第1図)
- 来館者の7割以上がリピーターであり、その傾向は2022年度に新しい本館が開館する前から変わっていないことから、定期的な利用が定着していることがうかがえる。(第1表・第1図)(2021年度 第1表・第1図)
- 「資料やサービスについての満足度」では、新しい本館開館前は「職員の対応」が最も高かったが、本館開館後は「施設・設備」の満足度が最も高く、次いで「職員の対応」に変化しており、新しい本館開館の効果の表れと考えられる。(第9表・第16図)(2021年度調査 第8表・第14図)
- 利用者の年代については、新しい本館開館前は60代以上の利用者が約4割を占めていたが、開館後は30代以下の利用者が増えていることが確認でき、これまで以上に幅広い年代に利用されるようになっている。(第15表・第36図)(2021年度調査 第12表・第28図)

1 利用状況について

- ・ 本年度より質問「よくご利用される曜日」を新設した。
- ・ 利用頻度について、全体の割合は前年度と変わらず、「月に数回」203人(32.8%)が最も多く、「今日初めて」が163人(26.3%)と続いた。ただし、個々の構成比の増減については、「ほぼ毎日」(1.3%→2.6%)は約1.3ポイント増加、「週に数回」(19.6%→20.5%)は約0.9ポイント増加、「年に数回」(14.9%→17.3%)は約2.4ポイント増加となった。一方、「月に数回」(36.0%→32.8%)は約3.2ポイント減少、「今日初めて」(27.1%→26.3%)は約0.8ポイント減少した。(第1表・第1図)
- ・ 曜日について、全体の割合として「平日」339人(54.8%)が半数以上だった。
- ・ 男女別の曜日では、女性は、「平日」113人(47.5%)、「土日祝」78人(32.8%)が男性よりもその差が小さい傾向がみられた。(第2表・第4図・第5図)。

2 来館目的について

- ・ 「個人的な利用」(趣味・自習)(67.4%)が最も多く、これは前年度と変わらない傾向を示しているが、約2.8ポイント減少している。(第3表・第6図)
- ・ 「仕事上の利用」(13.4%)は前年より約3.6ポイント増加した。(第3表・第6図)
- ・ 利用している資料の種類としては「図書」が最も多く(34.6%)、次いで「新聞・雑誌」(11.1%)、「音楽・映像資料」(3.1%)と前年度と変わらない傾向であった。(第3表・第6図)

- ・ 利用しているサービスでは「調査・相談」が、前年 20 名 (2.2%) から 24 人 (3.9%) と人数、比率ともに増加し、「展示・講座」も 9 人 (1.0%) から 13 人 (2.1%) と増加している。(第 3 表・第 6 図)
- ・ 男女の選択率の差が倍以上あった項目として、男性の選択率が高かったのは「仕事上の利用」(男性 17.1%、女性 8.4%)、「新聞雑誌の利用」(男性 14.3%、女性 6.7%)、特に「音楽・映像資料の利用」(男性 4.5%、女性 0.4%) が顕著である。女性の選択率が高かったのは、「展示・講座」(男性 0.8%、女性 3.8%)、「ライブラリーショップの利用」(男性 0.6%、女性 1.7%) である。(第 3 表・第 7 図)

3 県立図書館の選択理由について

- ・ 「静かな環境だから」(61.7%) が最も多く選択され、次いで「建物・雰囲気が気に入っているから」(57.2%) が選択されている傾向は前年度と変わらないが、比率は上がっている。(第 4 表・第 8 図)
- ・ 男女の選択率の差が倍以上あった項目は「視聴覚資料を借りることができるから」(男性 3.6%、女性 0.4%) である。(第 4 表・第 9 図)
- ・ 女性は、「建物・雰囲気が気に入っているから」155 人 (65.1%) と「静かな環境だから」156 人 (65.5%) がほぼ同数選択されている。(第 4 表・第 9 図)

4 利用場所について

- ・ 前年度と変わらず、閲覧スペースと「1F,2F リフレッシュエリア」、「研究ブース・研究個室」が利用場所の上位を占めている。昨年度は次いで「静寂読書室」だったが、今年度は「ギャラリー展示」となった。選択比率の前年からの変化が大きかった場所も、「ギャラリー展示」で (6.5% → 8.1%) 約 1.6 ポイント増加している。選択比率が減少したのは、「人文科学資料、閲覧スペース」(18.6% → 16.6%) は約 2 ポイント、「ライブラリーショップ」(5.3% → 3.4%) は約 1.9 ポイント、「生涯学習相談デスク」(3.3% → 1.8%) 約 1.5 ポイント、「社会科学資料、閲覧スペース」(29.1% → 28.3%) 約 0.8 ポイント減少している。(第 5 表・第 10 図)
- ・ 男女別では、男性は「社会学資料、閲覧スペース」(男性 29.7%、女性 24.8%) が最も高かったのに対して、女性は「1F,2F リフレッシュエリア」(男性 23.0%、女性 29.4%) が最も高い傾向であった。10%未満の構成比率で男女差があったのは、「ライブラリーショップ」(男性 2.5%、女性 5.0%) と女性が約 2.5 ポイント高く、次いで「ザ・リーディングラウンジ」(男性 8.1%、女性 5.9%) は男性が約 2.2 ポイント高かった。(第 5 表・第 11 図)

5 利用の成果 (アウトカム) について

- ・ 前年度から「余暇を有意義に過ごせた」(41.6% → 38.0%) が約 3.6 ポイント減少したが、「その他」を除く選択項目の項目比はいずれも増加している。(第 6 表・第 12 図)
- ・ 男女別では、選択傾向に違いが多くみられ、男性で最も高かったのは「知識・教養が深まった」(男性 36.4%、女性 30.7%) であり、女性で最も高かったものは「余暇を有意義に過ごせた」(男性 34.7%、女性 43.7%) である。選択率の差が倍以上あった項目は、「疑問が解決できた」(男性 8.1%、女性 2.9%) である。(第 6 表・第 13 図)

6、7 満足度について

「全般的にみた県立図書館の満足度」について（第7表、第8表）

- ・ 「満足」が71.3%であり、前年の65.4%から約5.9ポイント上昇し、70%を超え、高い数値となった。「不満」は前年の1.3%から0.3%に減少した。「どちらかといえば満足」（26.2%）を合計すると97.5%以上となり、総じて満足度が高い結果となった。（第7表・第14図）
- ・ 男女別の回答においては、「満足」（男性71.2%、女性71.7%）が男女ともに70%を超えた結果となった。（第8表・第15図）

「資料やサービスについての満足度」について（第9表、第10表、第11表）

- ・ 「満足」が最も多く選択された項目は、「施設・設備」（76.4%）であり、前年度と同じ傾向である。次いで、「職員の対応」（59.4%）である。その他の項目についても、中央値がすべて4を示している。（第9表・第16図・第17図）
- ・ 「満足」「どちらかといえば満足」の選択率の合計が70%を超えた項目「施設・設備」（96.5%）、「開館日・開館時間」（85.4%）、「職員の対応」（83.9%）、「図書」（74.5%）の4項目である。いずれも前年度より高い数値となった。（第9表・第16図・第17図）
- ・ 「満足」「どちらかといえば満足」の選択率の合計が50%未満の項目「音楽・映像資料」34.3%、「データベース」36.0%、「電子書籍」28.2%、「調査・相談」35.6%、「4Fのパンフレット・チラシ」43.8%、「生涯学習相談」25.7%の6項目。「わからない」が50%を超えたのも上記6項目であり、「4Fのパンフレット・チラシ」以外の「わからない」の比率が増加し、「生涯学習相談」（73.6%）は、70%を超えている。（第9表・第16図・第17図）
- ・ 「不満」が最も多く選択された項目は、昨年度の「図書」（3.3%→1.8%）から「開館日・開館時間」（2.8%→2.5%）に入れ替わったが、昨年度の数値より「不満」は減少している。（第9表・第16図・第17図）
- ・ 「満足」の選択率は「電子書籍」「調査・相談」以外の9項目は女性が高い。（第10表・第11表・第18図～第30図）
- ・ 男性の回答は中央値がすべて4である。「満足」が40%を超えた項目は、「施設・設備」（74.5%）、「職員の対応」（58.0%）、「開館日・開館時間」（47.5%）の3項目であった。（第10表・第18・第20図～第30図）
- ・ 女性の回答も中央値はすべて4である。「満足」が40%を超えた項目は、「施設・設備」（79.3%）、「職員の対応」（61.4%）、「開館日・開館時間」（55.4%）、「図書」（48.9%）、「新聞・雑誌」（41.0%）の5項目であった。（第11表・第19図～第30図）

8 入退館時間について

- ・ 今年度、日頃利用する入退館時間についての項目を設けた。
- ・ 平日の入館については、「10時」83人（19.3%）が最も多かった。退館時間と交わるのは、「15時」43人（10.0%）であり、以降の選択率も大きく減少しているが、閉館に近づく「17時」（2.3%）「18時」（2.8%）代の選択率は微増するだけだった。（第12表・第31図）

- ・ 平日の退館時間については、「14時」（6.0%）以降選択率が大きく伸び、「17時」（16.4%）で2番目に高い数値となり、「18時」（11.0%）は落ち込んだ。閉館時間「19時」は23.6%となっている。（第12表・第31図）
- ・ 土日祝の入館は、平日と同じく「10時」65人（20.4%）が最も多かった。退館時間と交わるのは平日に比べ早く「14時」（8.2%）であるが、閉館1時間前の「16時」（2.2%）で大きく落ち込んだ。（第13表・第32図）
- ・ 平日の男女別の入退館時間を見ると、入館は男女ともに「10時」（男性21.2%女性16.4%）が最も多く、男性の選択率が高かった。女性は「12時」（8.2%）で数値の落ち込みが見受けられたが、男性には見受けられなかった。（第12表・第33図）
- ・ 平日の男女別の退館時間で、閉館時間前の退館のピークが、女性は「16時」で、男性は「17時」だった。（第12表・第33図）
- ・ 土日祝に関しては、入館は女性が「9時」（23.0%）が最も多く、男性は「10時」（19.5%）が最も多かった。土日祝でも、女性の「12時」（8.2%）の落ち込みは見受けられた。（第13表・第34図）
- ・ 土日祝の退館については、急激な選択率の低下は見受けられず、閉館時間が最も高い数値となった。（第13表・第34図）

9 回答者について

1) 性別

- ・ 男性357人（57.7%）、女性238人（38.4%）で、前年と同様に男性の割合が高い。（第14表・第35図）

2) 年代

- ・ 昨年度、最多が「60代」だったが、「70代以上」105人（17.0%）となった。最も少ないのは、昨年度と同じく「30代」62人（10.0%）だった。（第15表・第36図）
- ・ 今年度は、総数では「40代」から「70代」へ年代ごとに人数が増えている。しかし、性別ごとに見ると、男性は、「60代」以上が全体の約40%を占めているのに対して、女性は、「60代」以上は全体の約25%にも満たず、「40代」（18.9%）が最も多く、次いで「50代」（17.6%）が多い（第15表・第36図）
- ・ 年代別の男女比を見ると、60代に比べ、50代以下の世代の差は小さく、「19代」は男女同数（50%）である。また、「40代」については、男性（46.4%）女性（53.6%）と女性が高い。60代以上になると男女比の乖離が大きくなり、「60代」男性（72.4%）「70代」男性（73.3%）であった。（第16表・第37図）

3) 仕事

- ・ 今年度は、複数回答可とした。
- ・ 昨年度と同じく「フルタイム勤務（会社員・公務員）」180人（29.1%）が最も多く、「その他」を除いて、「専業主婦・主夫」43人（6.9%）が最も少なかった。選択率が10ポイント以上変動した項目はなかったが、「パート・アルバイト」（10.6%→8.9%）が約1.7ポイント減少した。（第17表・第38図）

- ・ 男女別でみると、男性が女性の倍以上あった項目は、「自営業」（男性 11.8%、女性 5.0%）、「無職・退職」（男性 25.8%、女性 12.2%）、女性が男性の倍以上あった項目は「専業主婦・主夫」（男性 0.0%、女性 17.6%）、「パート・アルバイト」（男性 6.4%、女性 13.4%）である。（第 17 表・第 39 図）

4) 住所

- ・ 県内在住者が 90%以上を占めているが、2022 年 (91.6%) より約 1.5 ポイント減少し、県外 (3.4% →5.3%) が増加した。また、県内の内訳では、県立図書館所在地である横浜市在住者が、(90.3% →86.2%) と約 4.1 ポイント減少している。（第 18 表・第 19 表・第 40 図・第 41 図）
- ・ 県内在住者の内訳を見ると、「横浜市」（90.3%→86.2%）が約 4.1 ポイント減り、横浜市外の地域が増加した。特に「県央地区」（0.8%→2.9%）は大きく増加している。（第 19 表）
- ・ 県内在住者の横浜市を除く、県内内訳を男女別でみると、女性は「横須賀・三浦地区」10 人 (4.5%) が突出して多く、「県西地区」0 人 (0.0%) であり、偏りのある結果となった。（第 19 表）